

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 シャコ

学名 *Oratosquilla oratoria*

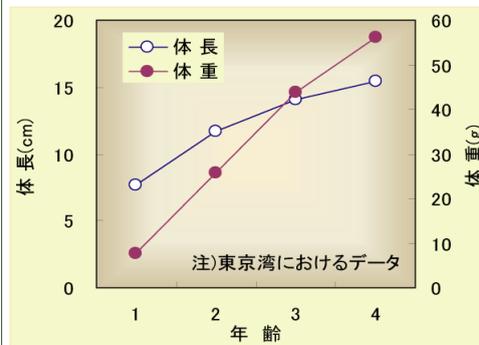
系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 3歳(本系群の詳細は不明)
 成熟開始年齢: 1歳
 産卵期・産卵場: 5～9月が産卵期で年2回(5月と8月)の産卵ピークが存在、産卵個体は、春季には伊勢・三河湾内のほぼ全域に分布し、特に湾口部および知多半島西岸に多い
 索餌期・索餌場: 周年湾内全域
 食性: 伊勢湾については不明、東京湾では2～3cmの小型個体では魚類を摂餌する比率が高く、4～12cmで貝類の比率が高まり、12cm以上の大型個体では多毛類、甲殻類も摂餌して食性が多様
 捕食者: 伊勢湾においては、マアナゴによる捕食が確認されている、その他の捕食者は不明

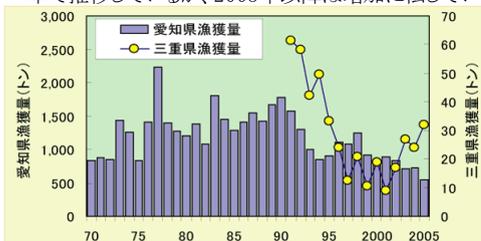


漁業の特徴

伊勢・三河湾におけるシヤコは、他海域と同様に小型底びき網による漁獲がほとんどであり、他には刺網と定置網で若干漁獲されている。

漁獲の動向

愛知県における1970年以降の漁獲量は547～2,238トンの範囲で変動し、3～5年周期で増減を繰り返している。1990年までは増加傾向にあったが、1991年から4年連続して減少した。1996年から3年間は1,000トンを超えたが、1999年以降は1,000トンを割り込み、その後減少が続いている。2005年の漁獲量は過去最低の547トンとなり、最近5年間で見ても動向は減少の状態である。三重県の漁獲量も近年減少が続く、1996年以降は約10～30トンの低い水準で推移しているが、2003年以降は増加に転じている。

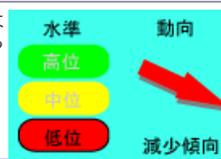


資源評価法

愛知県と三重県の合計漁獲量と小型底びき網のCPUEの経年変化を主体として、各県の精密測定調査、標本船調査、漁場一斉調査ならびに新規増加量調査の結果も合わせて資源状態を判断した。

資源状態

近年の漁獲量は愛知県、三重県ともに低い水準で推移している。小型底びき網のCPUEは2000～2005年に漸増しているが、伊勢・三河湾全体での漁獲量の減少は歯止めがかからず、2005年の愛知県漁獲量は過去最低を記録した。したがって、資源水準が低い状態は依然として継続しているものと判断される。



管理方策

本系群のシヤコ資源は低水準の状態が継続していると考えられ、限られた資源を持続的かつ有効に利用する方策が必要である。シヤコ伊勢・三河湾系群は、水産庁の推進する資源回復計画の対象種に指定されている。資源回復のためには、より適切な休漁期を設定するなど親シヤコの保護を図るとともに、漁場等の操業実態を勘案しつつ小型魚保護の観点から小型底びき網の適切な網目に関する検討を行い、小型魚の再放流を推進することが必要である。また、再放流に伴う生残率の向上を図るため、小型底びき網漁船にシャワー設備の導入を進めている。

資源評価のまとめ

- 近年の漁獲量の推移等から判断して、伊勢・三河湾のシヤコ資源は低水準の状態が継続している

管理方策のまとめ

- 低水準期の限られた資源を持続的かつ有効に利用する方策が必要である
 - より適切な休漁期の設定を検討し、親シヤコの保護を積極的に進める必要がある
 - 小型底びき網の目合い拡大等により、小型個体の再放流をより積極的に推進する必要がある
-

資源評価は毎年更新されます。